

Vol.
29&30

人社研 Newsletter



2012 (H24) 年度
後半期博士学位取得
(社会文化科学研究科及び
人文社会科学研究所後期課程)



2013 (H25) 年度
前半期博士学位取得
(人文社会科学研究所後期課程)

目次

巻頭辞	2
2012年度後半期及び2013年度前半期学位授与式	3
2013年度新規科目担当者	4
科学研究費 (新規)プロジェクト	5

所属教員による出版物	6
博士後期課程大学院生の受賞・助成金	6

人文社会科学研究科における改革に向けて

人文社会科学研究科長 大塚成男
(兼・社会文化科学研究科長)

2013年11月に、文部科学省から「国立大学改革プラン」が公表されました。そこでは、国立大学に対して、「各大学の強み・特色を最大限に生かし、自ら改善・発展する仕組みを構築することにより、持続的な『競争力』を持ち、高い付加価値を生み出す」ための改革を具体的に推進することが求められています。そして、その改革による大学の機能強化を進めるうえでは、強み・特色の重点化、グローバル化、イノベーション創出、そして人材養成機能の強化という4つの視点が示されました。このプランが公表されたことにより、すべての国立大学には、改革の流れを強化し、スピードアップすることが求められています。そして、人文科学と社会科学の融合により高度な教育研究・人材育成の機能を有する高等教育の場を確立するために2006年に設置された人文社会科学研究科においても、積極的な取り組みが行われています。

強み・特色の重点化に関しては、人文科学分野および社会科学分野における千葉大学の「ミッション」が明らかにされました。人文科学分野においては、学際性に立脚した柔軟な思考と深い洞察、より高い専門的知識・技能の習得並びに先導的に他者と協働する能力を養成していきます。そして、社会科学分野においては、実社会において専門家として発言・活動するための学識と論理展開能力を有する高度専門職業人・研究者を養成することが人文社会科学研究科の「ミッション」となります。また、グローバル化に関しては、フレンツェ大学とのダブル・ディグリー協定を締結するとともに、中国・魯東大学やラオス国立大学と新たな交流協定が締結されました。それに加えて、すでに実績のある海外協定校との交流を強化することによって、人文社会科学研究科としてのグローバル・ネットワークの形成が進められています。さらにイノベーション創出に関しては、地球環境福祉研究センターや地域研究センターによる積極的な研究活動を通じて、社会に対する発信を続けています。そして人材養成機能を強化するうえでは、人文社会科学研究科の改組を視野に入れて、育成される人材像を明確にした履修モデルを整備し、学部教育との連携を強化するための取り組みが続けられています。

ただし、社会における機能を強化するための新たな取り組みを進めることが急務であるとしても、見失ってはならないものがあります。1つは、大学院は学問の場であり、学問に対する真摯な姿勢を身に付ける場であるという点です。人文社会科学の分野では特に、結論に至るまでのプロセスの正当性が重視されます。そして2つ目には、人文社会科学研究は「人」と「社会」を研究する場であり、常に現実の人や社会との接点を持ち続けなければいけないという点です。これらは人文社会科学における原点であり、今後も尊重されるべき人文社会科学諸分野のディシプリンを形作っています。既存のディシプリンを尊重することは、改革や変化とは異なる方向であるように見えるかもしれませんが、しかし、今改めてさまざまな学問分野のディシプリンを踏まえた取り組みを行うことでこそ、「持続的な競争力」を持った大学院を作り上げることができます。

人文社会科学研究科は、いまだ発展の途上にあります。現在の人文社会科学研究科の組織についても、機能強化に向けた変更を行うことが計画されています。人文社会科学研究科の新たな姿は2014年度中に提示できるでしょう。社会からの可視性が高く、社会に対してより開かれた新たな人文社会科学研究科を作り上げていきたいと考えています。

2012（H24）年度後半期学位授与式および修了者祝賀会

2013年3月26日、文学部棟2階203講義室において学位授与式が行われ、以下に掲載する1名の方が社会文化科学研究科を修了して学位（博士）を、6名の方が人文社会科学研究科博士後期課程を修了して学位（博士）を、43名の方が人文社会科学研究科博士前期課程を修了して学位（修士）を取得されました。

また、学位授与式後、千葉大学生協同組合カフェテリアにおいて修了祝賀会が催されました（右写真）。



2012年度後半期社会文化科学研究科修了者（2013年3月）

氏名	博士論文題名	取得学位
太田 岳人	イタリア・ファシズム政権期の未来派—1930年代を中心に—	博士(文学)

2012年度後半期人文社会科学研究科後期課程修了者（2013年3月）

氏名	博士論文題名	取得学位
工藤 由美	先住民組織からケアを描く—チリの首都におけるマップ—組織活動の民族誌—	博士(学術)
佐藤 敦	セネガル共和国・セレール人村落における文化と開発—日常的実践と呪術、そして調査者の視点の変容—	博士(学術)
北山 裕子	新しい支援に向けての考察—福祉の領域と医療の領域の事例を通して—	博士(学術)
戴 林	中国における教員養成カリキュラム研究—教育実践課程を中心として—	博士(学術)
田川 史朗	現代社会における音楽著作権の私有と共有	博士(学術)
亀井 隆太	保証人の求償と弁済による代位に関する研究	博士(法学)

人文社会科学研究科博士前期課程学位（修士）取得者（2013年3月）

アイダナ ドスボル	宮下 美砂子	遠藤 彰輝	高 暎喜	松嶋 沙奈
加藤 幸実	木田 麻美	儀間 南	小松 暁子	東海林 志緒
多賀 秀哉	張 智君	藤田 早紀	丸山 怜依	溝口 敬志
吉田 朱花	盧 秋月	関口 智久	中村 京子	唐澤 裕智
川村 優	林 健太郎	藤塚 真弓	綿貫 ゆり	白 紅梅
稲永 紘子	海老沼 健人	倉田 直典	坂田 なお子	戸部 恭佑
李 哲	安孫子 香澄美	井上 はるか	内田 瑠璃	江河 あゆみ
韓 麗	辻田 匡葵	唐 磊	西田 恭介	金 仙蓮
陳 夢琪	平井 克治	劉 銘先		

2013（H25）年度前半期学位授与式および修了者祝賀会

2013年9月27日、人文社会科学系総合研究棟2階マルチメディア会議室で学位授与式が行われ、以下に掲載する4名の方が人文社会科学研究科博士後期課程を修了して学位（博士）を、1名の方が論文提出により学位（博士）を、1名の方が人文社会科学研究科博士前期課程を修了して学位（修士）を取得されました。

また、学位授与式後、人文社会科学系総合研究棟2階グラジュエイトラウンジにおいて修了祝賀会が催されました（右写真）。



2013年度後半期人文社会科学研究科論文提出による学位取得者
(2013年9月)

氏名	博士論文題名	取得学位
宮崎 文彦	「新しい公共」における行政の役割と民主シーの理想—公共哲学アプローチによる政策研究と現代共和主義理論の架橋	博士(公共学)

2013年度前半期人文社会科学研究科博士後期課程修了者（2013年9月）

氏名	論文表題	取得学位
那木拉	生態移民とは－内モンゴル・シリーゴル盟生態移民政策の実態を探って－	博士(学術)
鈴木 隆雄	当事者の語り合いから生まれる「自画像」－支配的文化の「他画像」に対する批判－	博士(学術)
HU SHUHAN	Towards Sound Management of End-of-life Vehicle in China (中国における使用済み自動車の適切な管理のための研究)	博士(経済学)
裴 峰学	想像の中華共同体－金庸武俠小説を中心に－	博士(文学)

2013年度前半期人文社会科学研究科博士前期課程修了者（2013年9月）

蔡 洋

2013 (H25)年度新規科目担当者

2013年度人文社会科学研究科新規科目担当者は以下の通りです。

課程	専攻	研究教育分野	職名	氏名	科目名
博士前期課程	地域文化形成	記録情報	准教授	引野 亨輔	史料管理学 史料管理学演習
博士前期課程	地域文化形成	表象・物質情報	准教授	山田 俊輔	考古資料論 考古資料論演習
博士前期課程	公共研究	公共思想制度研究	教授	酒井 啓子	中東政治 中東政治演習
博士前期課程	公共研究	共生社会基盤研究	准教授	高橋 絵里香	医療人類学 医療人類学演習
博士前期課程	社会科学研究	法学基礎理論	准教授	大澤 慎太郎	財産法 財産法演習
博士前期課程	社会科学研究	法学基礎理論	准教授	齊藤 愛	憲法 憲法演習
博士前期課程	社会科学研究	法学基礎理論	准教授	山口 道弘	日本法制史 日本法制史演習
博士前期課程	社会科学研究	経済理論・政策学	准教授	平口 良司	マクロ経済学Ⅰ マクロ経済学Ⅱ
博士前期課程	社会科学研究	経済理論・政策学	准教授	佐野 晋平	財政学Ⅰ 財政学Ⅱ
博士前期課程	総合文化研究	比較文化	准教授	アントルー・レイメント	Culture of the English Speaking Worlds Seminar on Culture of the English Speaking Worlds
博士後期課程	公共研究	公共哲学	准教授	清水 洋行	現代地域変動論
博士後期課程	公共研究	共生文化	准教授	兒玉 香菜子	ユーラシア民族論
博士後期課程	社会科学研究	経済学・経営学	教授	黒木 祥弘	金融論
博士後期課程	社会科学研究	経済学・経営学	教授	橋 永久	開発経済学
博士後期課程	社会科学研究	経済学・経営学	准教授	齋藤 裕美	医療経済学
博士後期課程	文化科学研究	文化情報	准教授	兼岡 理恵	日本伝承文学論

2013 (H25)年度科学研究費新規プロジェクト

2013年度の新規採択は以下の通りです。

1)代表者名 2)2013年度予算額(単位は円。括弧内は間接経費を内数で示す。)

専任教員

基盤研究(B)一般

「20世紀オーストリアにおける地域社会の変動と国民意識の再編」

1)小澤弘明教授 2)5,070,000 (1,170,000)

基盤研究(C)一般

「取引コスト」概念を用いた実証的会計研究と規範的会計研究の接合方法の探究」

1)大塚成男教授 2)1,690,000 (390,000)

基盤研究(C)一般

「現代語との対照に基づく近世江戸語文法形式の意味・機能に関する研究」

1)岡部嘉幸准教授 2)1,690,000 (390,000)

基盤研究(C)一般

「明治期の知とメディア言説を通してみた軍記文学の文化的展開に関する基礎的研究」

1)久保勇助教 2)1,040,000 (240,000)

特別研究員

基盤研究(C)一般

「現代の喪主選定にみる家族の構造と地域の変容」1)金沢佳子 2)780,000 (180,000)

若手研究(B)

「近代日本における人形創作とジェンダー」1)吉良智子 2)1,430,000 (330,000)

若手研究(B)

「近世イタリア絵画における傷病者・看護者像の社会史的表象研究：女戦士像を中心に」

1)新保淳乃 2)1,300,000 (300,000)

研究スタート支援

「ストリームデータを利用したICTサービス実装のためのプライバシー要件の理論的考察」

1)川口嘉奈子 2)1,430,000 (330,000)

研究スタート支援

「ロシア民衆芸術運動のジェンダーとナショナリズム マトリョーシカをめぐる考察」

1)福岡加容 2)910,000 (210,000)

日本学術振興会特別研究員(DC2)

特別研究員奨励費

「トスカーナ大公妃マリア・マッダレータ・ダウストリアの居室装飾」1)太田智子 2)900,000 (0)

特別研究員奨励費

「英国委任統治領パレスチナ成立要件の検討 - ハイファ確保に集約された戦後政策」

1)武田祥英 2)1,200,000 (0)

兼任教員

基盤研究(B)一般 知覚表象形成および運動制御における知覚情報処理の適応的方略の解明

(一川誠文学部教授)

基盤研究(B)一般 アラブ・イスラーム世界におけるマルクス主義の展開-運動・哲学・歴史像をめぐって

(栗田禎子文学部教授)

基盤研究(B)一般 ヨーロッパ保守政治の構造変容:保守主義・キリスト教民主主義・新右翼

(水島治郎法経学部教授)

基盤研究(B)海外 共有林経営の持続性と効果-ネパール113天然林の再調査(橘永久法経学部教授)

基盤研究(C)一般 アイヌ・アートの現在に見る「伝統」とジェンダー(池田忍文学部教授)

- 基盤研究(C)一般 古典期アテナイにおける哲学史編纂：フィロソフィアを巡る系譜論的視座の形成
(和泉ちえ文学部教授)
- 基盤研究(C)一般 中世仏教儀礼における音曲の復元的研究 読経と説経を軸として
(柴 佳世乃文学部教授)
- 基盤研究(C)一般 近世近代の枠を越えた十九世紀絵入小説史を記述するための書誌学的研究
(高木 元文学部教授)
- 基盤研究(C)一般 アリストテレスの「エネルゲイア」概念の規範性の基礎としての現代的意義の研究
(高橋久一郎文学部教授)
- 基盤研究(C)一般 気候変動条件下における氷下漁の環境文化論的研究(吉田 睦文学部教授)
- 基盤研究(C)一般 高速逐次視覚呈示(RSVP)を用いた視覚的注意の比較心理学的研究(實森正子文学部教授)
- 基盤研究(C)一般 公私協働の場としての公共施設の公法学的研究(木村琢磨専門法務研究科教授)
- 基盤研究(C)一般 社会における知識形成の一般理論の構築(松香敏彦文学部准教授)
- 基盤研究(C)一般 占領期ローカルメディアに見る文学者・出版関係者のネットワーク形成に関する研究
(大原祐治文学部准教授)
- 基盤研究(C)一般 ミャオ語系諸言語の記述言語学的・歴史言語学的研究(田口善久文学部准教授)
- 基盤研究(C)一般 人的資産にかかわる財務的及び非財務的測定に関する理論的・実証的研究
(内山哲彦法経学部准教授)
- 挑戦的萌芽研究 学習・文化・進化における認知適応の一般理論の構築(傳 康晴文学部教授)
- 挑戦的萌芽研究 瞳孔反応を指標とした注意機能の客観的測定(木村英司文学部教授)
- 挑戦的萌芽研究 準契約概念の系譜的研究(金子敬明専門法務研究科准教授)
- 若手研究(A) 医療イノベーションの多角的価値の測定と薬価・費用負担の設計への応用
(齋藤裕美法経学部准教授)
- 研究スタート支援 フィンランドにおける家族介護支援の認定プロセスについての人類学的研究
(高橋絵里香文学部准教授)

2013年1～12月

人文社会科学研究所所属教員（兼担教員を含む）による出版物

久保田正人『英語学点描』（開拓社、2013年11月）（A5・304頁）

本書は、英語学の論考（第 部）を中心に、その前後に英語学習上つまづきやすいことから（第 部）と失語症の論考（第 部）を配したものです。英語の研究と失語症の研究は不思議な組み合わせにも見えるかもしれませんが、言語学的な失語症研究は、「神経言語学」(neurolinguistics)と呼んでもよいものであり、その点で英語の研究と失語症の研究はどちらも言語学の下位分野として位置づけられます。

本書に納められている論考のうち第 部と第 部の論考に首尾一貫して流れている、いわば心構えを述べれば、「きちんと英語を読む」というようなものになります。たとえばJohn is as tall as Bill. というような簡単な文でも、わたくしの経験上、これを正確に解釈できていた人はそれほど多くありませんでした。ある通信社がオバマ米大統領の“The relationship between the United States and China will shape the 21 century, which makes it as important as any other bilateral relationship in the world.”という発言を、「オバマ大統領は『米中関係を最重視』し、『世界中のどの2国間関係よりも重要だ』とあいさつした」と報道したことがあります。これに対して、元外交官の評論家が、これは「中学レベルの英文解釈の間違い」であり、「米中関係が21世紀を形作るだろうことは、米中関係を世界の他の2国間関係と同様に重要なものにする」と解釈すべきであると論評していました。日本語の拙さには目をつむるとしても、自身が「中学レベルの英語」すら読めない身であることを忘れ、公の場で無知をさらけ出した悲劇（喜劇？）です。この評論家はI dislike him as much as anybody. という文をどう解釈するのでしょうか。

これは一例です。が、英語（に限らず、外国語）をきちんと読むことは一般の知識人が考えているよりはるかにむずかしい。本書は英文解釈の指南書ではありません。が、与えられた英文を精緻に読むとここまで意味の世界が広がるということを実例で示し、その解釈原理を説いたものです。



社会文化科学研究科及び人文社会科学研究所博士後期課程大学院生の受賞・助成金

榎木憲一郎 2013年度日本フヒテ協会新人奨励賞 2013年11月23日

発行者 千葉大学大学院人文社会科学研究所
発行日 2014年3月31日 Phone/fax 043-290-3574
gshss412@ml.chiba-u.jp